

## 特集「ASP 事業を支える基盤技術 ——所有から利用へ——」の発刊によせて

保 科 剛

本号は、1998年頃から注目され始めた「ASP(アプリケーション・サービス・プロバイダ)」のコンセプト、要素技術、応用技術などに関する特集である。

ASPとは、「アプリケーション・ソフトウェアを、インターネットなどのネットワークを経由してレンタル提供するサービス・プロバイダ」である。1999年11月に、米国のASPインダストリ・コンソーシアム(ASPIC)の下部組織として、ネットワークを基盤とした次世代のアプリケーション・サービス・ビジネスの日本での普及、展開、市場開発のため、国際組織との連携、情報交換をしながら、日本市場でのパイロット事業の推進、問題点の共同解決、情報の提供などを行う目的で、ASPインダストリ・コンソーシアム・ジャパン(ASPICJ)が設立されて以来、国内においても着実に定着してきている。

ASPの現状と今後の方向性を見るときに、次の二つの視点が有用と考える。

第一は、ITのユーティリティ化である。電気、水道、ガスなどは、時間や場所を問わず、必要な時に必要なだけ供給されるユーティリティ産業として定着している。ASPは、この概念をITに拡大したものとして捉えることができる。インターネット技術、ブロードバンド技術、Webアプリケーション技術、セキュリティ技術の発展にともない、インターネット・データ・センタにアプリケーション・ソフトウェアを配備し、大容量の高速回線を経由して、サービスを配信することが現実的なものになった。これによって、従来はハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク、データセンタなどのアプリケーションを稼働させるために必要となる資源・設備をユーザ企業が保有し、運用しなければならなかったが、ASPではユーザ企業はそれらを所有する必要も運用する必要もなくなる。つまり、利用に応じて基本料金、月額料金等の賃貸契約を結ぶだけでよくなる。米国では、通常のライセンス契約に加えて、ASP契約を整備するソフトウェア・ベンダーが増えてきており、プロダクト提供からサービス提供へとユーティリティ化を加速する要素となっている。

第二は、アウトソーシングの潮流である。従来、アウトソーシングはメインフレーム・システムやクライアント・サーバ・システムのシステム運用サービスが中心であった。IBM社が提唱する戦略的アウトソーシングのように、ユーザ企業とアウトソーシング事業者との間に合弁会社を設立して、このサービスを遂行するというモデルもこれに含まれている。しかし、ユーザ企業は、経済環境の悪化と、その中で競争力を確保するために、一層、コアを絞り込むと同時に、それ以外をアウトソーシングする傾向を強めている。基幹システムを稼働させている大企業のEビジネス・システムにおいては、既に稼働しているミッションクリティカルな基幹システムと同様の高品位なシステム要件が求められるが、24時間365日連続稼働のための

高信頼・高可用性技術，インターネット・セキュリティ技術をベースとしたシステム環境の構築と安全運用を自営するには莫大な経費と時間を投じなければならない．ASP の一形態であるアプリケーション・ホスティングが E ビジネス・システムのアウトソーシングとして注目されているのである．

日本ユニシスでは，このような状況に対応して 1999 年より ASP サービス「asaban.com」を開始した．建築プロジェクト管理，グループウェアを手始めに，現在，電子市場/購買，SCM/CRM，遠隔教育などの様々な ASP サービスを提供している．また，2000 年 8 月より ASP サービスの基盤技術をベースに，アプリケーション・ホスティング・サービス「Kiban@asaban」の提供を開始した．本号では，asaban.com の設計・構築・運用を通して得た技術，ノウハウについて報告する．本号が，ASP の理解の一助となれば幸いである．

( asaban.com 事業部技術企画室長 )